

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

山陽白色セメント株式会社

(2) 事業所の所在地

広島県三原市糸崎南1丁目2番地1号

(3) 業種

2121 セメント製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成22(2010)年度を基準年度とし、平成23(2011)年度から平成27(2015)年度までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成22年度	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成 年度
エネルギー 起源CO ₂	18,242	16,418 10.0	16,240 11.0	16,174 11.0	16,559 9.0	14,913 18.0	100.0
非エネルギー 起源CO ₂	17,018	15,379 10.0	16,261 4.0	14,793 13.0	14,478 15.0	14,322 16.0	100.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フロン類		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	22年度に比較し製品生産量は減少しており、エネルギー起源CO ₂ 及び非エネルギー起源CO ₂ はともに削減となっている。						

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成22年度	平成27年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成 年度
エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
フロン類		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エネルギー消費 原単位 (原油換 算kl)	143.2		168.0 -17.0	155.9 -9.0	167.6 -17.0	153.5 -7.0	100.0
実績に対する 自己評価	対H22年度実績に対するコメント ○生産数量の減少に伴い、生産準備におけるエネルギーの割合が増加している。 ○また設備更新など投資による大規模なエネルギー原単位の削減も難しくなっており、現存機器による運転能力 (エネルギー原単位) 維持までが実施可能な活動となっている。						

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	燃料使用量:22.9%削減	○製品生産高の減少(対H22年度比:19.1%減) ○生産設備の故障・トラブル発生による効率悪化の防止
2	電気使用量の削減	電気使用量:20.3%削減	○製品生産高の減少 ○生産設備の故障・トラブル防止 ○不要な機器の停止 ○旧式変圧器など電気設備を効率の良い最新式へ更新
3	石灰石使用量の削減	石灰石使用量:18.3%削減	○製品生産高の減少
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み (環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	廃棄物排出量の削減	コピー用紙使用量削減 分別による焼却ゴミの削減	○両面印刷, 古紙の裏面使用 ○不要なカラーコピーの削減 ○古雑誌・古紙等を再生紙工場へ持込
2	場内の緑化対策	緑地内緑化管理の維持	○定期的な場内の清掃活動の実施 ○場内エリア別管理部署の設定と管理の推進
3	公共交通機関の積極的な利用	—	○出張時における積極的な利用

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。